

令和元年度吉田高校サポート協議会総会 次第

日時：令和元年6月12日(水)14:00～

場所：燕市役所 つばめホール

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 出席者紹介

4. 議事

(1) 議案第1号 平成30年度吉田高校サポート協議会事業報告について

(2) 議案第2号 令和元年度吉田高校サポート協議会役員を選任について

(3) 議案第3号 令和元年度吉田高校サポート協議会事業計画について

5. 報告事項

(1) 吉田高校の学校教育活動について

6. その他

7. 閉会

議案第 1 号

平成 30 年度吉田高校サポート協議会事業報告について

吉田高校サポート協議会の平成 30 年度事業報告は下記のとおりです。

令和 元 年 6 月 1 2 日提出

吉田高校サポート協議会

会長 星 野 光 治

記

平成 30 年度吉田高校サポート協議会事業報告

期日	事業	内容
6 月 27 日(水)	吉田高校サポート協議会設立総会	12 団体が集まり、設立総会を開催し、吉田高校サポート協議会が発足した。 【参集団体】 吉田商工会 燕商工会議所 分水商工会 弥彦村商工会 社会福祉法人燕市社会福祉協議会 社会福祉法人弥彦村社会福祉協議会 一般社団法人燕市観光協会 一般社団法人弥彦観光協会 社会福祉法人つばめ福祉会 社会福祉法人吉田福祉会 社会福祉法人桜井の里福祉会 吉田高校を支え発展を願う会

期日	事業	内容
8月31日(金) 9月3日(月) 5日(水) 7日(金) 10日(月) 12日(水)	模擬面接	<p>会員の6団体が面接官となり、3年生を対象に模擬面接を6日間行い、延べ44人の生徒に指導を実施した。</p> <p>【事業協力会員】 社会福祉法人つばめ福祉会 社会福祉法人吉田福祉会 社会福祉法人桜井の里福祉会 株式会社サマンサハート 株式会社武田金型製作所 株式会社山本鉄工所</p>
1月28日(月)	地域の声を聴く会	<p>吉田高校で開催された「地域の声を聴く会」に星野会長と事務局が参加し、吉田高校サポート協議会の取り組みや産業界の現況などを説明した。</p> <p>【事業協力団体】 吉田商工会</p>
1月29日(火)	巣立ち教室	<p>3年生を対象に巣立ち教室を開催し、星野会長が社会に出て必要なことや気をつけることを話すとともに、学校から巣立っていく141名にエールを贈りました。</p> <p>【事業協力団体】 吉田商工会</p>

期日	事業	内容
3月28日(木)	理事会	<p>10 団体が集まり、理事会を開催し、総会提出議案を審議するとともに、学校の取り組みについて、灰野校長が説明した。</p> <p>【参集団体】 吉田商工会 燕商工会議所 分水商工会 社会福祉法人燕市社会福祉協議会 一般社団法人燕市観光協会 一般社団法人弥彦観光協会 社会福祉法人つばめ福祉会 社会福祉法人吉田福祉会 社会福祉法人桜井の里福祉会 吉田高校を支え発展を願う会</p>

吉田高校サポート協議会 平成30年度事業報告

令和元年6月12日

吉田高校サポート協議会

吉田高校サポート協議会設立総会



平成30年6月27日、**吉田高校サポート協議会設立総会**を開催。

将来地域を支え、発展に貢献する人材を育成するため、地元産業界などを中心に吉田高校の特色ある学校づくりを支援することを目的とした「吉田高校サポート協議会」が設立され、会長には、吉田商工会が就任した。

模擬面接指導



平成30年8月31日、9月3日、9月5日、9月7日、9月10日、9月12日の6日間、吉田高校サポート協議会による**模擬面接**を実施。

サポート協議会のメンバーと教員が2人1組になり、44名の生徒を指導しました。

地域の声を聴く会



平成31年1月28日、**地域の声を聴く会**に星野会長と事務局が参加し、吉田高校サポート協議会の取り組みや産業界の現況などを説明した。

巣立ち教室



平成31年1月29日、3年生を対象に**巣立ち教室**を開催し、星野会長が社会に出て必要なことや気をつけることを話すとともに、学校から巣立っていく141名にエールを贈りました。

理事会



平成31年3月28日、10団体が集まり、**理事会**を開催し、総会提出議案を審議するとともに、学校の取り組みについて、灰野校長が説明しました。

議案第 2 号

令和元年度吉田高校サポート協議会役員の選任について

吉田高校サポート協議会の令和元年度の役員を下記のとおり定める。

令和元年6月12日提出

吉田高校サポート協議会

会長 星野 光 治

記

- 1 会 長 吉田商工会

- 2 副会長 燕商工会議所
分水商工会
弥彦村商工会

- 3 理 事 社会福祉法人燕市社会福祉協議会
社会福祉法人弥彦村社会福祉協議会
一般社団法人燕市観光協会
一般社団法人弥彦観光協会
社会福祉法人つばめ福祉会
社会福祉法人吉田福祉会
社会福祉法人桜井の里福祉会
吉田高校を支え発展を願う会

- 4 任 期 令和元年6月27日から令和2年6月26日まで

議案第 3 号

令和元年度吉田高校サポート協議会事業計画について

吉田高校サポート協議会の令和元年度事業計画を下記のとおり定める。

令和 元 年 6 月 1 2 日提出

吉田高校サポート協議会
会長 星 野 光 治

記

令和元年度吉田高校サポート協議会事業計画

時期	事業	内容
6 月	総会	平成 30 年度の事業報告と令和元年度の役員選任と事業計画について審議を行う。
7 月	ビジネスマナー講習会	インターンシップの事前学習のため、ビジネスマナー講習会の講師として指導を行う。
	職場見学	2 年生を対象に進路指導の一環として、地元企業での職場見学を行う。
7 月～8 月	インターンシップ	2 年生を対象にインターンシップの受け入れを行う。(概ね 3 日間程度)
9 月	模擬面接	3 年生を対象に模擬面接を行い、面接官として指導を行う。
1 月	巣立ち教室	3 年生を対象に巣立ち教室を開催し、就職や進学に対する心構えを指導する。

吉田高校サポート協議会会則

(名称及び事務局)

第1条 本会は、「吉田高校サポート協議会」と称し、事務局を燕市教育委員会学校教育課内に置く。

(目的)

第2条 本会は、将来地域を支え、地域の発展に貢献する人材の育成を行うことにより、新潟県立吉田高等学校（以下「吉田高校」という。）の教育の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 平成29年3月29日に燕市と弥彦村が新潟県教育委員会へ提出した『燕市内の県立高校の特色化に関する提案書』の趣旨に基づいて行う事業
- (2) 吉田高校と協議のうえ必要とされる事業

(組織)

第4条 本会は、次項に定める会員を持って組織する。

2 会員は、本会の目的に賛同する団体とする。なお、会員が次の事項に該当したときは、その翌日から資格を失うものとする。

- (1) 団体が解散をしたとき。
- (2) 脱会を申し出たとき。

(役員)

第5条 本会には、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 3名
- (3) 理事 若干名

2 役員は、総会の議決を得て選任する。

3 役員の任期は、1年とする。ただし、再任は妨げない。

4 会長は、会務を総理し、会議を代表する。

5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

6 理事は、本会の運営について審議する。

(会議)

第6条 本会の会議は、総会と理事会とする。

2 会議は、会長が招集し、会長がその議長となる。

3 総会は、次のとおりとする。

(1) 定例総会は、年1回開催する。

(2) 臨時総会は、必要に応じて開催する。

4 理事会は、会長、副会長及び理事で構成し、必要に応じて開催する。

(会則の変更)

第7条 本会の会則を変更しようとするときは、総会の議決を得なければならない。

(雑則)

第8条 この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が理事会に諮って別に定める。

附 則

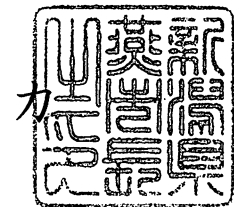
この会則は、平成30年6月27日（設立総会の日）から施行する。

新潟県教育委員会教育長
池田幸博様

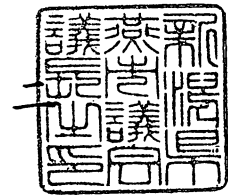
燕市内の県立高校の特色化に関する提案書

平成29年3月29日

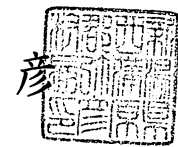
燕市長 鈴木



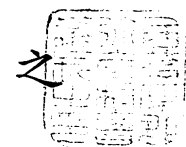
燕市議会議長 中山 眞



弥彦村長 小林 豊



弥彦村議会議長 武石 雅之



はじめに

県教育委員会は、平成 28 年 3 月に『県立高校の将来構想』を策定し、適正な学校規模を 1 学年あたり 4～8 学級とする一方、「他にはない特色ある教育活動を展開するうえで、あえて小規模が妥当とする学校もあり得る」としています。

また、『将来構想』の基本的な考え方として、「地元関係者からの意見にも配慮しながら 3 年毎の県立高校等再編整備計画を策定する」としています。

吉田高等学校の募集学級数は、平成 30 年度に 3 学級とする計画が公表され、また分水高等学校は、既に平成 28 年度から 2 学級募集となっており、このままでは燕市内にある県立高校の存続が危ぶまれます。

しかしながら、両高校は燕市と弥彦村の中学校卒業生にとって大切な進路先であるとともに、将来の地域社会や地場産業等を担う人材の育成に必要不可欠な存在であります。

このため燕市では、両高校を小規模であっても特色ある学校として今後も存続させるため、総合教育会議や地元産業界、各高校の同窓会・後援会、燕・弥彦 PTA 連絡協議会等からなる懇談会を開催し、両高校の特色化のあり方を幅広い観点から検討するとともに、燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョンを進める弥彦村とも協議させていただき、本提案書をまとめました。

つきましては、今後の県立高校等再編整備計画の策定にあたっては、本提案書における“意見”を十分に汲み取っていただき、その実現について特段のご配慮をいただけますようお願い申し上げます。

第1章 総論

1 特色化に向けた検討の経過

(1) 燕市総合教育会議

以下のテーマで市長と教育委員が2回にわたり意見交換を行った。

- ① 学びの連続性を重視した未来の燕市を担う人材の育成方法
- ② 地元高校の特色化のあり方

(2) 高校特色化懇談会

地元産業界や各高校の同窓会・後援会、燕・弥彦 PTA 連絡協議会の役員で構成する懇談会を3回開催し、地元高校の特色化について検討した。

- ① 両高校の現状と課題
- ② 教育課程における特色化の内容
- ③ 部活動・課外活動における特色化の内容

(3) 弥彦村との協議

燕市での検討内容を弥彦村と協議し、県への提案書としてまとめた。

2 燕市内にある県立高校の現状

(1) 分水高等学校

- ① 創立年 昭和 57 年 10 月 15 日（開校：昭和 58 年 4 月 1 日）
- ② 学級数・生徒数（平成 28 年 10 月 1 日現在）
1 学年：2 学級 ※H28 年度から 2 学級募集
全校生徒 287 名（男 147 名、女 140 名）
- ③ 教育課程 全日制 普通科

(2) 吉田高等学校

- ① 創立年 昭和 37 年 4 月 1 日
- ② 学級数・生徒数（平成 28 年 5 月 1 日現在）
1 学年：4 学級 ※H30 年度から 3 学級募集
全校生徒 507 名（男 220 名、女 287 名）
- ③ 教育課程 全日制 普通科

3 特色化に関する基本的な方向性

これからの時代を生き抜く能力を養う特色ある教育課程や部活動・課外活動を地域との協働で推進し、1学年2～3学級の小規模であっても、一定数の修学ニーズを満たす学校を目指す。

(1) 教育課程の特色化による魅力づくり

- ① 多くの中学生及びその保護者が高校入学後に将来の進路を選択できることを望んでいる実態を考慮し、両校とも普通科を基本としつつ、学年進行に応じ複数のコースなどを選択できる教育課程とする。
- ② 選択コースでは、他の県立高校では学ぶことのできない特色あるコースを導入する。
- ③ 設定するコースは、これからの社会で生き抜くために必要な知識や技能の基礎を養い、進学及び就職にも役立つ内容のものとする。

(2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 既に特色化しつつある部活動の充実を図るとともに、遠隔地からも生徒を受け入れることができるための環境整備等を行う。
- ② 特色ある地域イベントの企画・運営参加など、教育課程を補完するような校内活動や課外活動の活発化を図る。

(3) 地域との連携による魅力づくりと情報発信

- ① 地域の自治体や産業界等が特別授業や職場体験の受け入れを行うなど、他の高校では学ぶことのできない特色ある教育課程を推進する。
- ② 羽ばたけつばくろ応援事業やキャプテンミーティング等地元自治体の事業の活用・拡充等により、部活動・課外活動の活発化を図る。
- ③ 地元自治体の支援・協力によるパンフ作成やPR活動を展開するなど、中学生や保護者に学校の魅力や特色を積極的に情報発信する。

※1 「羽ばたけつばくろ応援事業」は、燕市の将来を担う人材の育成を目的に、若者が主体的に行う社会参画活動等を支援する事業です。平成28年度においては、吉田高校の茶道部が行ったモンゴル国パラアーチェリー選手団との国際交流事業や、分水高校の2年生が台湾の高校と行った国際理解・異文化交流事業が採択されました。

※2 「キャプテンミーティング」は、一流アスリートを講師に招へいし、部活動において中心的な役割を担う子どもたちを対象に、リーダーとしての資質や能力を養成する事業です。現在は、中学生を対象に実施していますが、これを高校生版に拡充することが考えられます。

第Ⅱ章 分水高等学校の特色化について

1 特色化の内容

新科目「公共」を実践的に学ぶモデル高校として位置づけ、地域資源や地域の人材を活用した授業を積極的に展開するとともに、授業を補完する課外活動の活発化と特色ある部活動の強化を図る。

(1) 教育課程の特色化による魅力づくり

- ① 新科目「公共」の履修をベースに地域創生人材を育成する学校として位置づけ、地域と連携した授業を実施することにより、課題発見能力や問題解決能力の育成、合意形成のプロセスの習得を目指す。

(例)

- ・自治体職員によるワークショップ型授業
- ・地域資源を活用し地域と連携した授業 など

- ② 県内唯一の公務員への進路を想定した地方行政コースを新設し、地方創生を推進する人材の育成を図る。

(例)

- ・自治体へのインターンシップ
- ・自治体職員による行政や地方自治に関する出前講座 など

- ③ 地方行政コース以外にも新科目「公共」での学びを活かし、生徒をより目的意識をもった進路選択へ導く。

(例)

- ・大河津分水を題材とした「公共」の学びは、大学等で土木や建築を学びたいという進路志望につながることを期待
- ・少子高齢化社会の課題を題材とした「公共」の学びは、保育士や看護師、介護福祉士への資格取得を目指す生徒の増加を期待
- ・地域産業やインバウンド観光を題材とした「公共」の学びは、経済経営系の進路に進み、グローバルに活躍する人材の輩出に貢献など

(2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 分水高校タウンマネジメント部（仮称）を創部し、学校・地域・行政が連携して地域課題解決の調査研究を進めるなど、新科目「公共」の学びを補強する課外活動の活発化を図る。

(例)

- ・燕市及び弥彦村のイベントの企画運営への参加協力
- ・ビッグデータ (RESAS) の活用による地方創生への施策提案 など

- ② 全国レベルにあるカヌー部に魅力を感じ、多くの生徒が集まる部へ押し上げる環境整備を地域と協力して行うなど、部活動の特色化を図る。

(例)

- ・遠隔地から生徒を受け入れるための環境整備等
（同窓会や地域住民によるホームステイの受け入れなど）
- ・練習環境の整備や外部指導者による講習会の実施 など

2 その他、特色化を進めるにあたり検討すべき事項

立地環境を考慮し、交通不便地域や部活動に対応した交通手段や生活支援のあり方について検討する。

- ① 部活動終了時など既存公共交通の運行がない場合の交通手段のあり方

(例)

- ・通学シャトルバスの運行 など

- ② 遠隔地から入学を希望する生徒の生活支援のあり方

(例)

- ・地域住民や同窓会などの協力によるホストファミリーの募集 など

第Ⅲ章 吉田高等学校の特色化について

1 特色化の内容

他校との差別化を図るために、既存のコース（文系、理系、情報ビジネス、健康体育、文化教養）を踏まえつつ、地域特性や社会ニーズを活かした福祉、外国語、観光ビジネスの科目を取り入れたコースに再編するとともに、地域企業や大学との連携による外部講師陣の充実により、魅力ある授業を展開し、多様な生徒の進路希望に対応する。

(1) 教育課程の特色化による魅力づくり

① 地域特性や社会ニーズを踏まえた新たなコース・科目の導入と地域企業や大学等の外部講師を活用した授業の実施

ア 高齢化社会に対応する介護職の人材育成を目指した福祉科目

(例)

- ・地元の介護、福祉事業所へのインターンシップ など

イ グローバル展開を図る地域産業の担い手を育成する外国語科目

(例)

- ・地元企業によるビジネス外国語（英語、中国語等）講座 など

ウ 外国人観光客の増加を見据えた観光ビジネス科目

(例)

- ・行政や観光協会でのワークショップ型授業
- ・ホテル、旅館でのインターンシップ など

② 既存コースについても、時代の変化に対応した最新の知識の習得や地域特性を生かした特色ある授業の実施

(例)

- ・コンピュータグラフィックス
- ・アイデアソン・ハッカソンによる発想力の養成
- ・クラフトマンによる彫金や工芸の特別授業 など

(2) 部活動・課外活動の特色化による魅力づくり

- ① 実績のあるアーチェリー部や自転車競技部に加え、今後レベルアップが期待される空手道部など特色ある部活動の強化を図る。

(例)

- ・遠隔地から生徒を受け入れるための環境整備
- ・練習環境の整備や外部指導者による講習会の実施 など

- ② 地元自治体や各種団体等が進める事業に積極的に参画するなど課外活動を活発化し、授業だけでは得ることのできない企画力、コミュニケーション能力などの養成を図る。

(例)

- ・燕市及び弥彦村のイベント等への積極的な参加
- ・東京オリパラホストタウン構想推進への参加 など
(モンゴル国との交流におけるホストスクール化)

2 その他、特色化を進めるにあたり検討すべき事項

周辺環境の整備が進む中、通学に便利で開放的なイメージを発信するため、通学路などの環境整備を検討する。

(例)

- ・新設された市道側からの出入口の開設や緑化推進 など

結びに

本提案はあまり時間的余裕がない中でとりまとめたものであり、必ずしも十分なものではないかもしれませんが、地元の高校を存続させ、地域及び新潟県の将来を担う有為な人材を育成していただきたいという関係者の“想い”が込められたものであります。

両高校の特色化のキーワードは、「これからの時代を生き抜く力の育成」と「地域との連携」です。

燕市及び弥彦村においては、本提案にある特別授業の実施や部活動・課外活動の推進などに当たり、行政、産業界、高校の同窓会・後援会などが一致協力し、できる限りのバックアップをしていきたいと考えております。

県及び県教育委員会におかれましては、こうした地元の“熱意”を真剣に受け止めていただき、「県と地域が連携して進める特色ある県立高校」のモデルケースのひとつとして取り組まれることを希望するとともに、その具体化に向けた協議を速やかに開始していただきますようお願い申し上げます。

吉田高校サポート協議会会員名簿（令和元年6月12日現在）

No.	区分	会員名
1	会長	吉田商工会
2	副会長	燕商工会議所
3	副会長	分水商工会
4	副会長	弥彦村商工会
5	理事	社会福祉法人燕市社会福祉協議会
6	理事	社会福祉法人弥彦村社会福祉協議会
7	理事	一般社団法人燕市観光協会
8	理事	一般社団法人弥彦観光協会
9	理事	社会福祉法人つばめ福祉会
10	理事	社会福祉法人吉田福祉会
11	理事	社会福祉法人桜井の里福祉会
12	理事	吉田高校を支え発展を願う会
13	会員	エコー金属株式会社
14	会員	株式会社サマンサハート
15	会員	株式会社新越ワークス
16	会員	株式会社武田金型製作所
17	会員	公益社団法人つばめいと
18	会員	燕運送株式会社
19	会員	新潟ダイヤモンド電子株式会社
20	会員	藤田金属株式会社
21	会員	株式会社ほしゆう
22	会員	明道メタル株式会社
23	会員	株式会社山本鉄工所
24	会員	燕・弥彦総合事務組合

吉田高校サポート協議会座席図【燕市役所つばめホール】

【敬称略】

吉田高校を支え発展を願う会
会長 長谷川 日吉
弥彦村商工会
事務局長 樋浦 久夫
燕商工会議所
会頭 田野 隆夫
吉田商工会
会長 星野 光治
分水商工会
会長 高野 文夫
燕市社会福祉協議会
会長 山岡 重雄

燕市観光協会
事務局長 井上 亮
つばめ福祉会
教育研修室長 中山 毅
吉田福祉会
業務執行理事 中野 弘行
桜井の里福祉会
法人本部総務課主任 羽入 さゆり
山本鉄工所
代表取締役社長 山本 悦郎
燕運送
取締役統括部長 涌井 英樹
明道メタル
人事グループ長 大野 峰幸
藤田金属
課長補 今井 理恵
吉田高等学校
校長 小竹 聖一
吉田高等学校
教頭 丸山 綾子

吉田高校を支え発展を願う会
副会長 川上 明雄
吉田高校を支え発展を願う会
副会長 河合 利勝
吉田高校を支え発展を願う会
副会長 深澤 龍雄
吉田高校を支え発展を願う会
副会長 小林 正則
つばめいと 代表理事
新越ワークス 代表取締役
山後 春信
吉田商工会
事務局長 堀 孝一
燕市社会福祉協議会
事務局次長 中川 かおる
燕市学校教育課
主事 阿部 寛佳
燕市学校教育課
主事 板橋 洋祐
燕市学校教育課
副参事 向井 康弘

燕市学校教育課課長補佐
横田 雄司
燕市学校教育課長
太田 和行
燕市教育次長
宮路 一規
燕市教育長
遠藤 浩
燕市主幹
二平 芳信
弥彦村教育課長
富田 憲

吉田高校サポート協議会総会 出席者名簿

【敬称略】

団体名	役職	氏名
吉田商工会 株式会社ほしゆう	会長 代表取締役社長	星野 光治
吉田商工会	事務局長	堀 孝一
燕商工会議所 エコー金属株式会社	会頭 代表取締役	田野 隆夫
分水商工会	会長	高野 文夫
弥彦村商工会	事務局長	樋浦 久夫
社会福祉法人燕市社会福祉協議会	会長	山岡 重雄
社会福祉法人燕市社会福祉協議会	事務局次長	中川 かおる
一般社団法人燕市観光協会	事務局長	井上 亮
社会福祉法人つばめ福祉会	教育研修室長	中山 毅
社会福祉法人吉田福祉会	業務執行理事	中野 弘行
社会福祉法人桜井の里福祉会	法人本部総務課主任	羽入 さゆり
吉田高校を支え発展を願う会	会長	長谷川 日吉
吉田高校を支え発展を願う会	副会長	川上 明雄
吉田高校を支え発展を願う会	副会長	河合 利勝
吉田高校を支え発展を願う会	副会長	深澤 龍雄
吉田高校を支え発展を願う会	副会長	小林 正則
公益社団法人つばめいと 株式会社新越ワークス	代表理事 代表取締役	山後 春信
株式会社山本鉄工所	代表取締役社長	山本 悦郎
燕運送株式会社	取締役統括部長	涌井 英樹
明道メタル株式会社	人事グループ長	大野 峰幸
藤田金属株式会社	課長補	今井 理恵

【新潟県立吉田高等学校】

役職	氏名
校長	小竹 聖一
教頭	丸山 綾子

【事務局】

役職	氏名
燕市教育委員会教育長	遠藤 浩
燕市教育委員会教育次長	宮路 一規
燕市教育委員会主幹	二平 芳信
燕市教育委員会学校教育課長	太田 和行
弥彦村教育委員会教育課長	富田 憲
燕市教育委員会学校教育課課長補佐	横田 雄司
燕市教育委員会学校教育課副参事（総務企画係長）	向井 康弘
燕市教育委員会学校教育課総務企画係主事	板橋 洋祐
燕市教育委員会学校教育課総務企画係主事	阿部 寛佳